

与謝野町自分ごと化会議

自分ごと化 会議

私に関係ある？ あり！

2024年12月8日
構想日本 シニアフェロー
小瀬村 寿美子

- ◆ 与謝野町自分ごと化会議の概要
- ◆ 事務事業評価の進め方
- ◆ ワークショップの進め方

自分ごと化会議とは

構想日本

目的

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、**住民自らが自分事**としてまちの状況を知り意見を出し合う
- 地域のこと、「みんな」のことについて**具体的に考え、課題解決**を目指す

「自分ごと化会議」の特徴

（１）住民基本台帳等から無作為に選ばれた市民が参加する

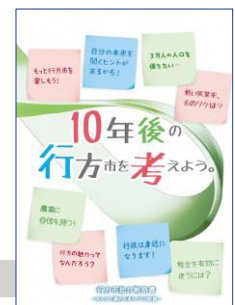
- これまで行政の取組みやまちづくりに関わってこなかった「ふつうの人」が多く参加
- 女性や若者の参加者率が高いのが特徴

（２）複数回の対話を通して、課題解決策を取りまとめる

- 外部（構想日本）の人間がコーディネーターを務め、参加する住民の発言から論点が生まれ議論を発展させていく
- 「言っぱなし」で終わらないように、参加者は具体的な課題とその改善策を記入しながら、参加者同士の合意形成を図り、提案を取りまとめる

（３）「自分はどうか」「どんな社会で暮らしたいか」をもとに議論する

- 行政や各種団体への要望に終始するのではなく、課題解決のためにまずは**自分たちでできることから考える**



テーマ：「与謝野町の公共交通を考える」

住民の生活や経済活動を支える公共交通は、利用者の減少や運転手不足等の大きな課題を抱えている。だれもが暮らしやすい社会の実現のために、公共交通を「自分ごと」として考える場とする。

第1回 事務事業評価

参加住民に対し、自分ごと化会議の意義や目的を説明。

与謝野町が現在実施している公共交通に関する3つの事業を明確にするために、地域住民に向け事業説明や評価者による質疑応答を踏まえ、行政が取り組んでいる事業の理解を深める。

第2回 ワークショップ

ナビゲーターに、他自治体の成否事例などを紹介して貰い、客観的な視点での課題を発散していく。

その上で、1回目に出た生活実感を伴った課題について議論を深掘りする。

第3回 ワークショップ

第1,2回で出てきた課題を第3回で集約し、与謝野町のこれからの地域交通のあり方に集約していく。

提案書の素案の中に、これまでの議論の内容が反映されているか確認する。

提案書 完成

これまでに話し合った内容及び議論ごとに記載する改善提案シートの内容等を基に、今後取り組んでいくべきことを明らかにし、自分（住民）たちができること、地域でできること、行政に求めることを明文化し、何に挑戦していくかを提案書としてまとめる。

第1回事務事業評価 12/8(日)

タイムスケジュール	内 容
13:00～13:05	趣旨説明（みなさんに期待することなど）（5分）：与謝野町
13:05～13:20	自分ごと化会議の説明：構想日本 与謝野町地域交通の概要説明：与謝野町
13:20～14:10	事業説明①(50分) ・概要説明(10分) ・議論＆意見シート記入(40分)
14:10～15:00	事業説明②(50分) ・概要説明(10分) ・議論＆意見シート記入(40分)
15:10～16:00	事業説明③(50分) ・概要説明(10分) ・議論＆意見シート記入(40分)
16:00～16:15	意見シート記入、振り返り、次回に向けての案内

第2回ワークショップ 12/22(日)

タイムスケジュール	内 容
13:00～13:10	・前回の振り返り ・改善提案シートについての説明 ・今回の内容の説明
13:10～13:40	自己紹介（一人1.5分×20人）
13:40～14:10	ナビゲーターからの講義
14:20～16:00	議論（100分）途中10分休憩 ・改善提案シートのまとめを踏まえ課題の深掘り&整理 ・具体的な解決策の検討 ・改善提案シートの記入

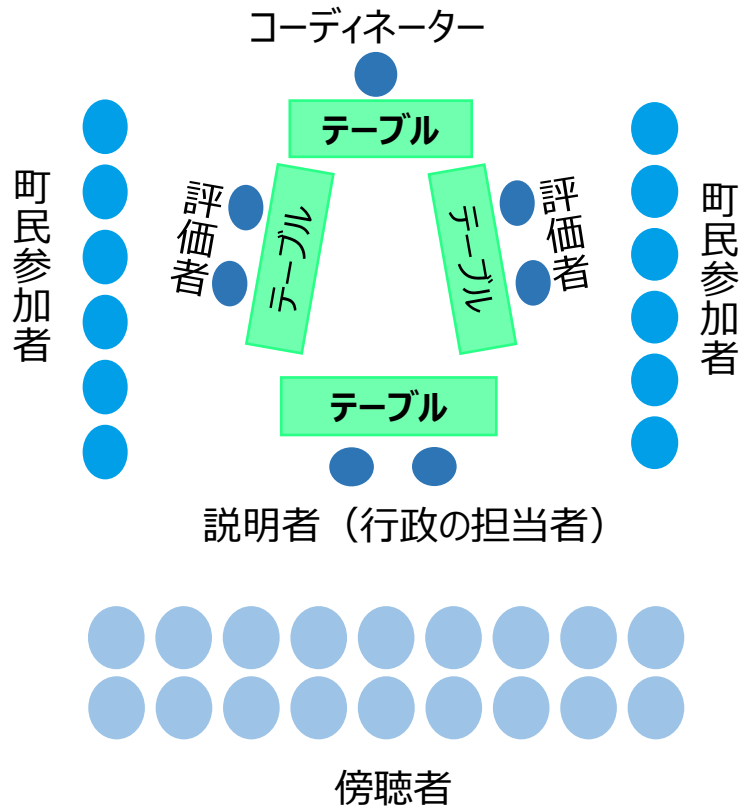
第3回ワークショップ 1/13(月祝)

タイムスケジュール	内 容
13:00～13:20	・振り返り& 今回の流れ ・企画提案書の説明（簡易的）
13:20～16:00	議論（120分）途中10分休憩 ・企画提案書について

◆ 事務事業評価の進め方

第1回事務事業評価の流れ

会場のレイアウト（イメージ）



※レイアウトは参考。
当日の会場によって変更の可能性あり

議論の流れ

事業 説明 (10分)

- 説明者（職員）が事業の概要や主なポイントを説明。
- 事前に説明原稿を用意することが多いが、**棒読みではなく何がポイントなのか**聞いている側がわかるように。

質疑 議論

- 評価者から説明者に対して質問、議論（町民参加者が課題を理解するために必要な論点を様々な視点から質問）。
- 評価者の質問は**一問一答**が原則（複数の質問をして回答をすると噛み合わなくなる）。議会の答弁とは違うことに留意。
- 説明者は、わかりにくい質問には**聞き返して**もらう方が良い。
- 町民参加者は、議論を聞きながら随時意見シートの自由記述欄を記入。

意見 シート 記入

- コーディネーターにより、論点の整理。
- 町民参加者は意見シートの記入にあたって必要な質問があれば挙手し、質問。
- 町民参加者は各事業ごとに「現状の課題」と「その課題の解決方法」を考え、意見シートに記入。
- 町民参加者から意見や感想の表明。

議会答弁ではなく「**対話**」を心掛ける。

事業シートの読み方 1

※ 以下は、担当職員に対して事業シートの書き方の説明をしたものです。事務事業評価当日は、事業シートが説明文のような考え方で記載されているかどうかチェックしてください。

事業シート（概要説明書）			
予算事業名	● 対象事業名です	事業開始年度	事業の 開始年度です
上位施策事業名	● 上位の施策名を記載してください	担当局・部名	対象事業を 担当する部課 担当名を記載 してください
根拠法令等	● 事業実施の根拠となる法令、条例、規則等を記載してください	担当課・係名	
事務区分	☐ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ● 自治事務・法定受託事務の区別を記載してください	作成責任者	
重要！ 背景	● この事業がなぜ必要なのか、その理由、背景を記載してください。 ● 事業がいつから、どんなニーズによって開始されたか（行政主導によるものか、住民の意向を反映したものか等）、事業開始時の状況をわかりやすく記入してください。		
目的 (何のために)	● この事業は何のためにやっているのか、その目的（ねらい）を記載してください。 ● 端的に、わかりやすく記載してください（総合計画に記載されていることをそのまま張り付けたり、曖昧な表現になったりしないよう注意してください）。		

事業シートの読み方 2

事業概要	対 象 (誰・何を対象に)	この事業が対象にしている人、団体、ものなどを記載してください。複数の対象がある場合は、すべて箇条書で記入してください。		対象者数（全住民に対する割合）		
			人	(%)		
	実施方法	☐ 直接実施（直営）		該当する項目にチェックをつけてください（複数選択可。例えば基本的には直接実施するが、一部を委託しているものなど）。		
		☐ 業務委託 又は ☐ 指定管理 （委託先又は指定管理者：				
		☐ 補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体： ）				
		☐ 貸付（貸付先： ） ☐ その他（ ）				
事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）		事業費		活動指標	
	- 事業の実施内容を箇条書きで、具体的にわかりやすく記載してください。 - 事業が複数に分かれたり、細事業がある場合は、それぞれの内容を記載してください。 - それぞれの事業内容について、事業費と活動指標を記入してください（活動指標は可能な範囲で構いません）。 - 事業費のかからない事務についても、可能な限り記載してください（事業の全体像を知ってもらうことを目的としています）。		千円			
			千円			
			千円			
			千円			
			千円			
関連事業 (同一目的事業等)	★この事業と関連する事業がある場合に記載してください。 ★事業名とともに、担当部局、事業費、簡単な事業内容（一言で）を記載してください。 ★国、都道府県、民間事業との関連（類似）事業があればそれも記載してください。					

事業シートの読み方 3

コスト			2024年度（予算）		2023年度（決算見込み）		2022年度（決算）		2021年度（決算）					
	事業費	事業費合計		千円		千円		千円		千円				
		事業費内訳 （2023年度分）	● 当該事業の2023（令和5）年度にかかった事業費の内訳を記載してください。 ● 予算書上の費目ではなく、住民が見ても、何にお金を使っているか分かりやすいように記載してください。											
	人件費	担当正職員		人		千円		人		千円		人		千円
		臨時職員等		人		千円		人		千円		人		千円
		人件費合計		人		千円		人		千円		人		千円
	総事業費					千円				千円				千円

- この事業に携わった正職員、会計年度任用職員等の従事職員人数に、職員等の平均人件費を乗じた額を記載してください。
- 正職員は担当正職員欄に、会計年度任用職員や再任用職員など正職員以外に人件費については、臨時職員等の欄に記載してください。
- 人件費合計：この事業に携わった正職員と会計年度任用職員等に支出した金額の合計額を記載してください。
- 総事業費：この事業に要した事業費の合計と人件費の合計を総事業費として記載してください。

<従事職員人数について>

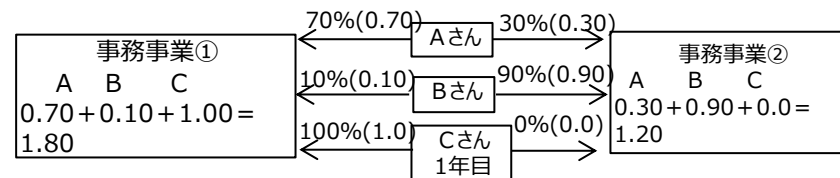
従事職員人数は、各職員の年間の労働力を、携わっている事務事業に割り振ることで算出してください。
なお、担当正職員、会計年度任用職員別でそれぞれ算定してください。

《例》

〇〇課には、Aさん、Bさん、Cさんの3人の職員がおり、事務事業①と②の2事業を実施しています。3人の担当割合に応じた割合を事務事業ごとに足し合わせることで、各事務事業に従事した職員の数人を計算しています。Aさんは1年間平均して、事務事業①に70%、事務事業②に30%の時間を費やしています。同じくBさんは事務事業①に10%、事務事業②に90%、Cさんは事務事業①のみ担当していますので、事務事業①に100%の時間を費やしています。

※事務事業の従事職員人数は右図のとおり、事務事業①は1.8人、事務事業②は1.2人となっております。

※職員1人の割合は、100%（1.0）を超えないようにしてください。



財源 内訳	国県補助金	● 国からの負担金・補助金（交付金）・委託金を計上してください。							
		国県補助金の内容	● 国からの負担金・補助金・委託金の名称を記載してください。						
	地方債	千円		千円		千円		千円	
	その他の財源 （使用料、手数料など）	● 受益者負担分（使用料・手数料など）や基金の繰入などを計上してください。							
		その他の財源の内容	● 特定財源の名称を記載してください。						
	一般財源	● 一般会計（市税・交付金など）、特別会計などを財源とした予算を計上してください。							
	財源合計	● 財源内訳の合計額です。この財源合計と総事業費は同額となります。							

事業シートの読み方 4

事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	2023年度	2022年度	2021年度
		- 当該事業を通して行ったことを記載してください。指標は一つとは限りません（複数の場合は欄を追加してください）。 - 活動実績は「何をしたか」です。これまで行ったことを定量的に記載してください。		/	/	/
事業実績	単位当たりコスト	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	2023年度	2022年度	2021年度
		活動実績がどのくらいの経費で行われたのか、総事業費を活動実績で除して示します。				

事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	「実施の背景」や「目的」欄から、成果指標を導いてください。 - 成果指標設定の考え方や、数値上では表れにくい成果についてのコメントを記載してください。				
	重要！ 成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	2023年度	2022年度	2021年度
事業成果	成果 （目標達成状況）	- 成果指標は当該事業がどのような状況になったら「目的の達成」と言えるかの指標です。 - 活動指標と同じく、複数ある場合は欄を追加して記載してください。		/	/	/

事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	● 担当課としての自己評価を記入してください。 ● 事業の目的に対し、どのような課題があるのか（あったのか）、見直しをしている最中で現在はどういう状況になっているかなどについて記載してください。 ● また、活動実績や成果実績などから、今後の具体的な取り組みの内容、成果とコストに対する今後の考え方や、この事業をどのようにしていきたいかなどを記載してください。
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	● 業務内容や経費等が適正かどうか確認するため、同業他社である他の自治体との比較データを記載してください。 ● 自治体のみならず、必要に応じて国や都道府県、民間との比較も記載してください。 ● 先進事業など何らかの理由により、他の自治体で比較できないような場合は、その理由を記載してください。
特記事項	● 事業の成り立ち、経緯など当該事業に関し、特に明記すべきことを記載してください。

- 写真や図などを示した方が事業の全体像がよりわかりやすい場合は、事業シートの他に数枚の補足資料の添付してください（あくまでも「補足」なので、補足資料だけで説明を終わらせることのないよう気を付ける）。
- 市民が当該事業の全体像を理解することに主眼を置いているので、例えば20ページ程度の補助要綱をすべて添付するようなことは控え、該当部分のみ抜粋するなどしてください。

与謝野町自分ごと化会議

意見シート

お名前

事業名	京都丹後鉄道利用促進事業
-----	--------------

担当職員の説明、コーディネーター、評価者との議論を通じて、**感じたこと、課題に思ったこと**などを自由に記載してください。

裏面に続く

事業名	京都丹後鉄道利用促進事業
-----	--------------

与謝野町における公共交通のこれからのあり方を考えたときに、この事業における現状の課題とそれを解決するためにできることは何かみなさんのご意見をお聞かせください。

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
	【住民の役割】
	【行政の役割】

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
	【住民の役割】
	【行政の役割】

◆ ワークショップの進め方

目的

- 身近な問題を政治・行政任せにせず、**住民自らが自分事**としてまちの状況を
知り意見を出し合う
- 地域のこと、「みんな」のことについて**具体的に考え、課題解決**を目指す

進め方

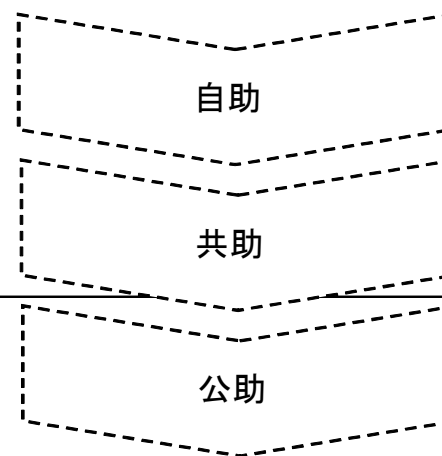
- 地域の課題について、生活から見える現象をもとに参加者（住民）が議論
- 参加者の発言から生まれた論点で、議論を発展させていく
- 課題解決のためにまずは自分たちでできることから考える
- 「個人でできること」「地域でできること」を具体的に考える
- 課題解決策に向けた具体的な改善策を「意見シート」に記入する
- 意見シートの意見を集約し、提案書をする



改善提案シートの書き方

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
<例> 公園が利用されていない	<u>(住民の役割)</u> ・個人として 知らない公園が多いので把握する ・地域として 草刈りなど、公園整備のサポートをする 休憩用のベンチを提供する
	<u>(行政の役割)</u> 街の中にある遊び場のマップを作成する
	<u>(その他)</u>

あなたが考える現状の課題	その課題を解決する方法
協議会において議論 をする中で参加委員 が考えた現状の課題 を記載	<u>(住民の役割)</u> ・個人としてできること
	・地域としてできること
	<u>(行政の役割)</u>
	<u>(その他)</u>



その課題を解決
するにあたり、個
人、地域、行政そ
れぞれが取り組
むことを記載



コーディネーターによる流れの説明





評価者による
質疑・議論



コーディネーター
論点整理





住民参加者
意見・感想発表

● 住民判定人方式とは

議論は外部の仕分け人が行い、その議論を聞いて、無作為抽出により選ばれた「住民判定人」が判定を行う（1つの班で20名程度、判定人は議論には加わらない）という自治体の事業仕分けの新しい手法。裁判員制度と似ている。

● スタートは埼玉県富士見市

2009年に富士見市で初めて実施。住民基本台帳から1000人を抽出、判定人参加の依頼を送付。そのうち79名が応募（2班に分かれて実施）。

● 住民判定人方式の効果

住民判定人は市民の中から無作為抽出で選ばれるため、一部の関心層だけではないより広範な意見が反映される。また、これまで行政との関わりが少なかった住民にとって、「当事者意識」を持つきっかけとなる。

● 参加者属性の変化

無作為抽出による参加者は、「公募」に比べて「女性」「若者」の参加比率が高くなる。

- 2020年度実施自治体の4割程度は、参加市民の過半数が女性。
- 40代以下が4割程度参加することが多い。



行政がシナリオを作ることなく、住民が純粹に感じたことから評価を実施

参考：「住民協議会（ワークショップ）」



- * テーマに沿って自由に話し合います
- * 多様な意見を大事にしていきます
- * 最終回は参加者の笑顔と共に記念撮影をしました

参考：行政やまちづくりへの住民参加の新しい手法

構想日本

これまで

公募方式

広報紙等で募集し、住民からの応募によって決める方法。

<特徴>

意識の高い人の声を聞くことができる一方で、利害関係者などが手を挙げ、参加者が特定の人に固定化する傾向。

推薦・一本釣り方式

団体からの推薦や首長の一本釣りで決める方法。

<特徴>

専門性の高い人や地域の有力者を選ぶことができる一方、毎回団体の長を選ぶことによる形骸化や参加者の固定化などの課題あり。

これから

公募方式

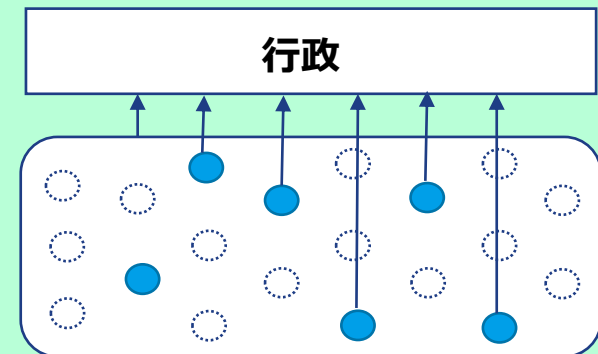
推薦・一本釣り方式

無作為抽出方式

無作為で抽出した市民に案内を送付し、その中の応募者が自分ごと化会議に参加する方法。

<特徴>

社会や公共的なことに一定の関心がある人たちが参加



無作為に選ぶと、年齢・性別・住む地域・職業など異なる多様な住民での対話が可能に！

参考：無作為手法を活用した会議

行政主催

総合計画 北海道清水町 2019年度	総合戦略 兵庫県川西市 2019年度	総合戦略 千葉県鴨川市 2019年度	総合計画 京都府福知山市 2020年度
総合戦略 茨城県行方市 2020年度	地域コミュニティ 群馬県太田市 2021年度	ごみの減量化 福岡県大刀洗町 2021年度	家庭ごみの減量 鳥取県琴浦町 2021年度
歴史ある住宅・城跡の未来 福岡県大刀洗町 2022年度	災害への備え 群馬県富岡市 2022年度	防災 群馬県太田市 2022年度	観光拠点 北海道芽室町 2022年度
公共施設の再編 奈良県田原本町 2022年度	これからの水産の在り方 静岡県浜松市水産地域 2023年度	子どもファーストなまちづくり 大阪府東大阪市 2023年度	共助・地域コミュニティ 奈良県奈良市 2023年度
公共施設の在り方 茨城県東海村 2023年度	公共交通 群馬県太田市 2023年度	流域治水 福岡県大刀洗町 2023年度	中学校の今後の在り方 山形県南陽市 2023年度

住民団体主催

エネルギー問題

島根県松江市
2020年度

家庭ごみの減量

群馬県前橋
2023年度

議会・会派主催

ゴミ問題

北海道恵庭市
2017年度

子育て環境

東京都杉並区
2018年度

駅前の再整備

神奈川県伊勢原市
2018～19年度

子どもの教育

岡山県新庄村
2022年度

政府及び全国156自治体で355回開催
11,424人の住民が行政や地域を「自分ごと」として捉えるように

※記載している数字および自治体名は、「住民が直接参加しない事業仕分け」を含めた総合実績です。2024年3月末時点。

（１）重要なことは住民にもわかる議論

事業仕分けで最も重要なのは住民を含めた「議論」。予算削減など結果だけが目的ではない。
まず、何のために事業仕分けを行うかが重要。そのための「手段」の一つ。

（２）計画ではなく実績・事実のチェック

立派な計画や趣旨説明があっても、その事業が実際に住民の役に立っていないことが多い。
現場を見て、それをチェックするのがレビュー。

（３）説明者（職員）と委員が対決する場ではない

この取組は、事業担当者と委員や住民が個々の事業の課題を共有し、ともに解決策を考える場。
「説き伏せる」ことや言葉遊びをする場ではない。事業仕分けの「目指す姿」は、住民がこのまちに住んで良かったと感じられること。

このような取組が最終的に目指すのは政治、行政の「自分事化」。そのために、いかに「気づき」を多く作るか。

①議論対象の具体化（事務事業レベルでの議論）

抽象的な議論や結論で終わらせないために、できる限り細かなレベルの事業を対象に議論する。

②「事業シート」の作成

事業の目的や内容、成果目標などが具体的かつ端的に記載され、統一フォーマットで行政の事業を比較できる「事業シート」を作成する。事業シートは様々な論点を浮き彫りにするための入口となる。

③外部かつ現場の視点

実際の税金の使われ方を熟知している外部の識者や経験者（リアリティを持つ現場の人）が、委員として参加することで、従来の行政内部での議論では出てこなかった論点が生まれる。

④全面公開

誰もが傍聴できるよう全面公開で行う。住民に開かれた場で議論することにより、緊張感、結論への責任感が生まれる。

また傍聴する住民の側も、事業内容や予算の使われ方を知ることによって行政に対して「当事者意識」や信頼感の醸成のきっかけとなる。

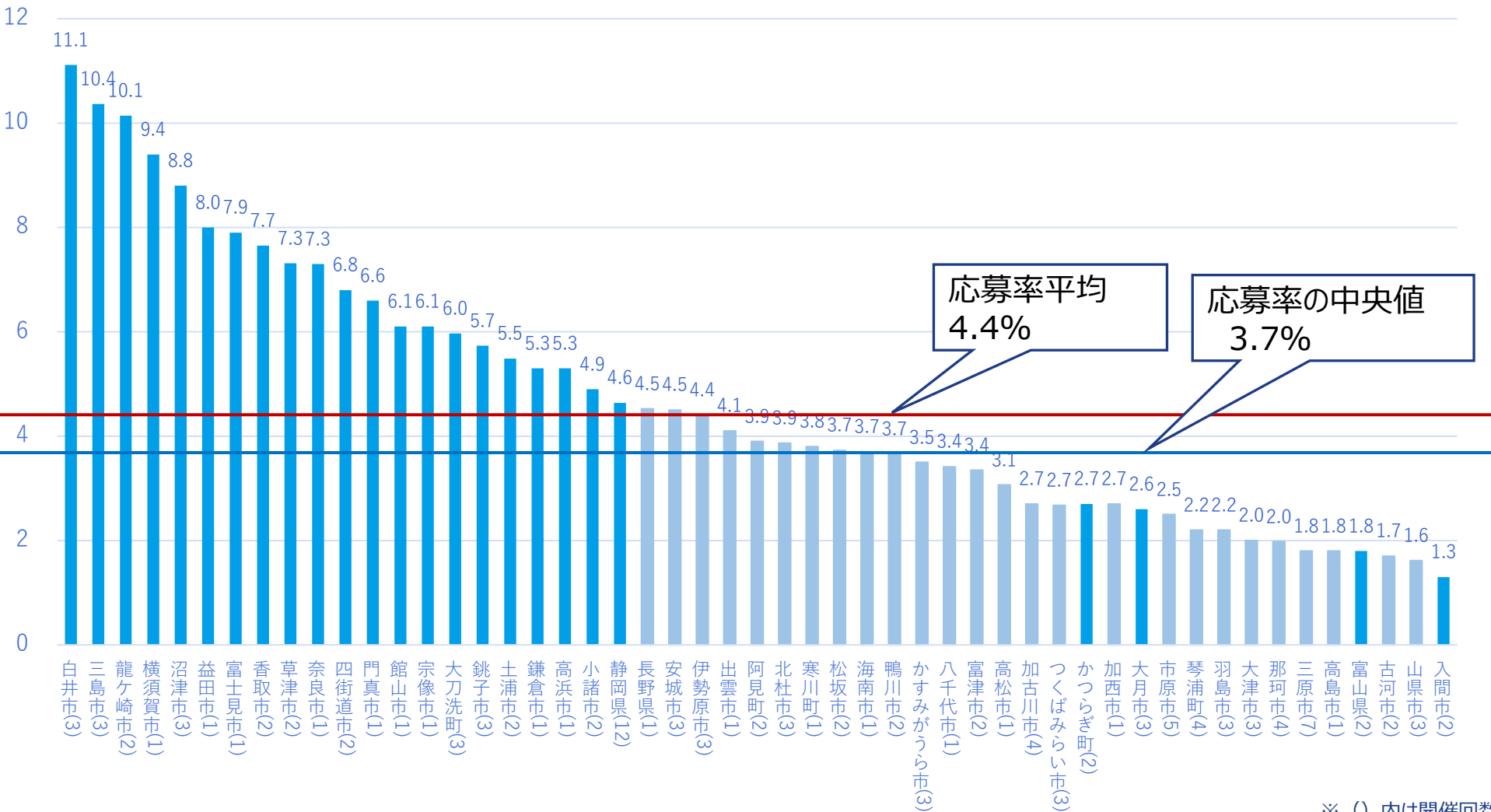
⑤明確な結論

最終的に一定の結論を出す。公開の場で明確な結論を出すことで、改革すべき内容が住民に明らかになり、その実現に直結する。

また、市民判定人による評価に対する最終判断は首長や議会の責任であるため、結論を入口として、その後の内部での議論を喚起することにもつながる。

参考：「住民判定人方式」の応募率

構想日本

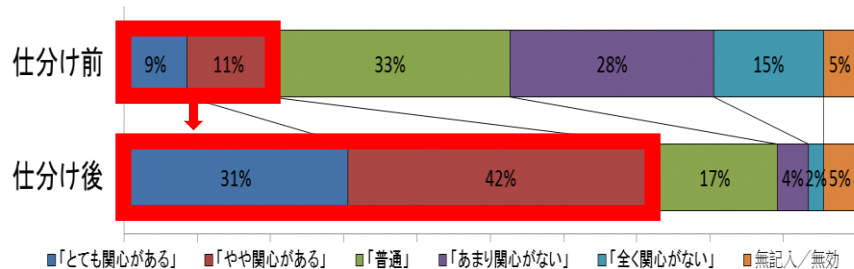


ドイツの「プラーヌクスツエレ」の相場は5%と言われている。
日本人の行政への関心は低いとは言えないのではないか。

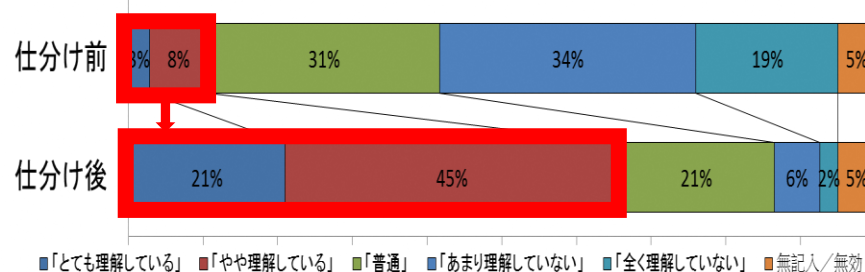
参考：住民判定人アンケート（１）

① 各項目における事業仕分け参加前後の意識・行動の変化

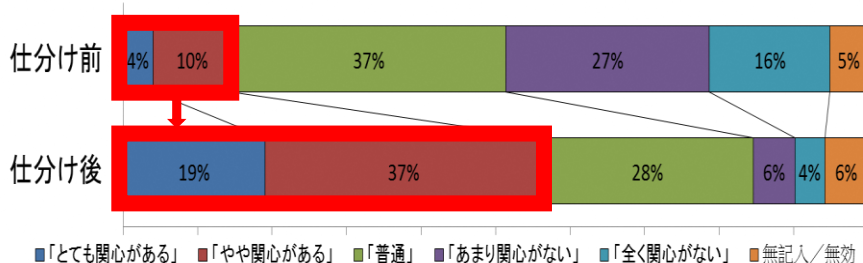
設問 1) 税金の使い方への関心度



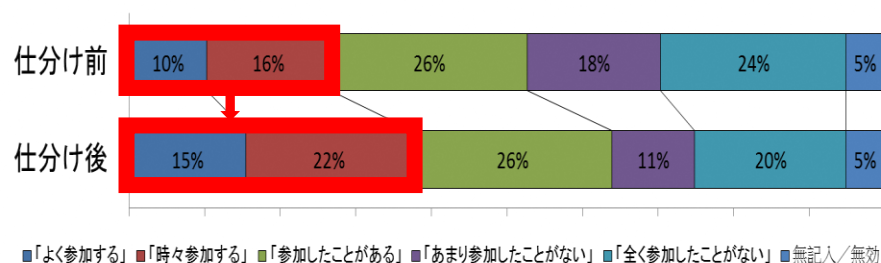
設問 2) 行政の事業の内容についての理解度



設問 3) 行政や議会の情報への関心度



設問 4) 地域づくりに関わる集まりに参加する頻度



※2009年～12年に実施した事業仕分け住民判定人方式（のべ35自治体）において判定人を務めた2,846人が対象。回答率43.4%。

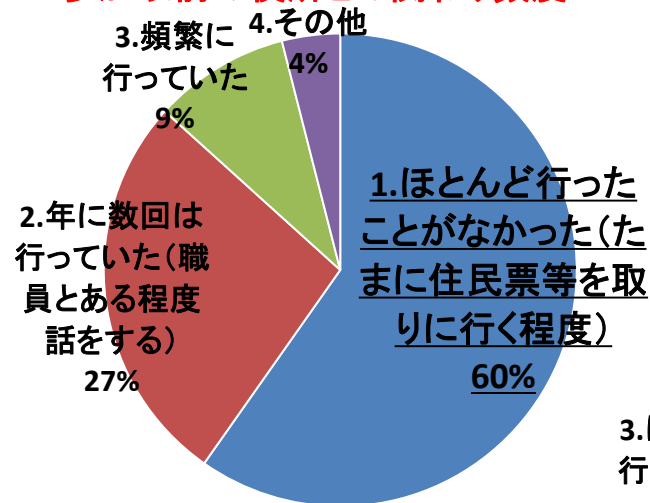
【その他の変化】

1. 事業仕分けへの参加によって行政の応援団に変わる。
2. 「利用者」「受益者」の視点に「納税者」の視点が付け加わる。

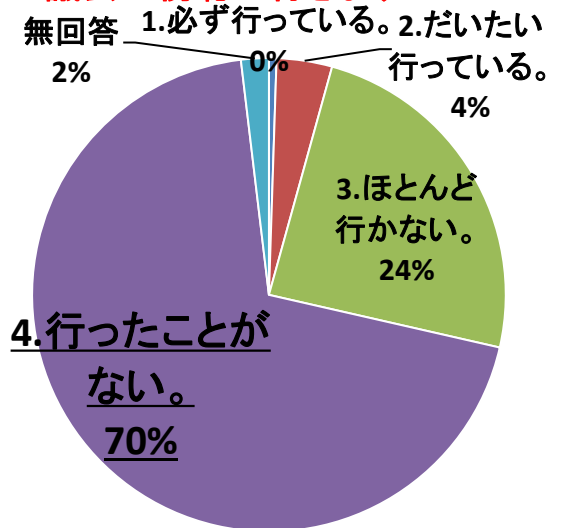
参考：住民判定人アンケート（２）

○過去、住民判定人として参加した住民へのアンケート結果※より。

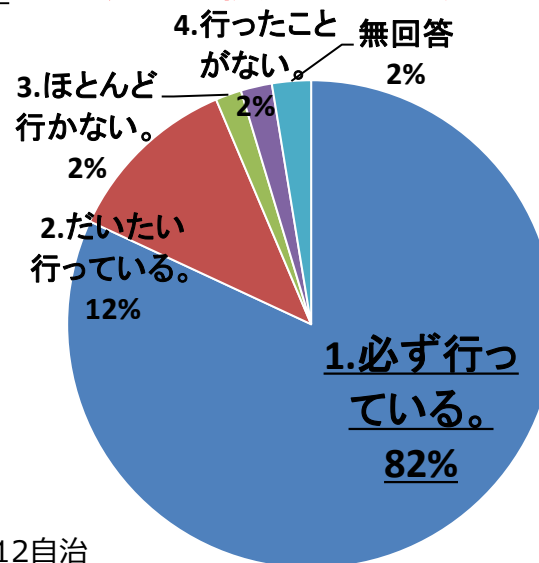
参加以前の役所との関わり頻度



議会の傍聴に行きますか？



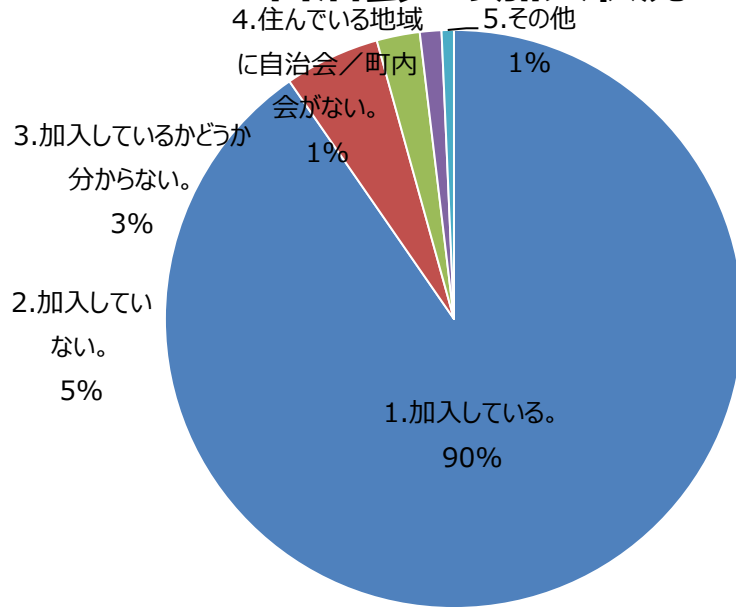
選挙の投票に行きますか？



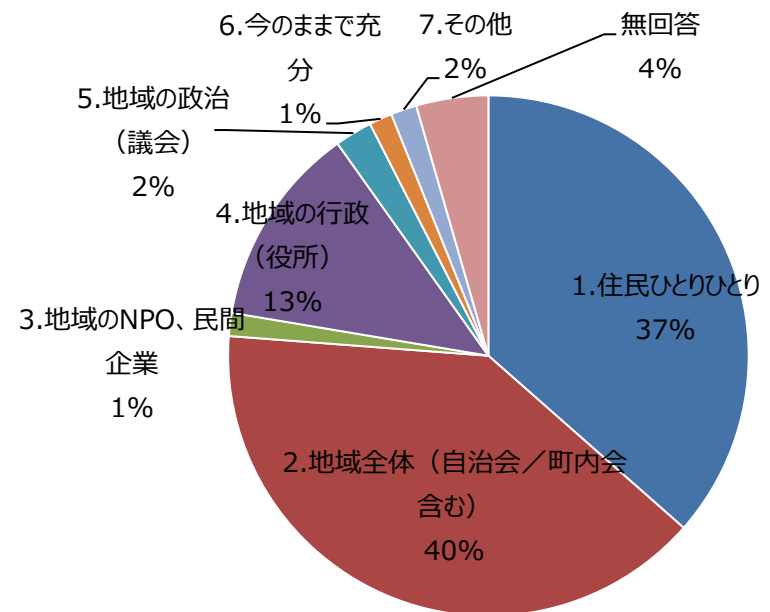
※2013,14年度に住民判定人方式で実施した12自治体の判定人経験者約1,100名が対象。回答率52%。

参考：住民判定人アンケート（3）

自治会への加入状況



地域で誰が主体的に行動すべき？



アンケート結果から見てくる参加住民の特徴

1. 役所との接点が少ない
2. しかし、投票や自治会加入など社会的な関心は高い
3. 自助、共助の意識がきわめて高い

無作為抽出は、「意識は高いが、接点のない住民」を巻き込むことができる手法。